

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：前佛 和秀

事業名 地域高規格道路 下北半島縦貫道路 一般国道279号 むつ南バイパス	事業 区分 一般国道	事業 主体 青森県
起終点 自：青森県むつ市田名部 至：青森県むつ市奥内	延長 8.7km	
事業概要 一般国道279号むつ南バイパスは、地域高規格道路下北半島縦貫道路の一部を構成する道路であり、災害発生時の半島孤立化の回避、医療救急ネットワークの向上、産業・観光分野の支援等を目的とし、青森県むつ市田名部から青森県むつ市奥内までの延長約8.7kmを整備するものである。		
H15年度事業化	H28年度都市計画決定	H18年度用地着手
H19年度工事着手		
全体事業費 約211億円	事業進捗率 約84%	供用済延長 約1.3km
計画交通量 8,200台/日		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 5.0	総費用 (残事業)/ (事業全体) 57/241億円 (事業費：49/233億円) (維持管理費：8.3/8.3億円)
		総便益 (残事業)/ (事業全体) 287/287億円 (走行時間短縮便益：255/255億円) (走行経費減少便益：26/26億円) (交通事故減少便益：5.9/5.9億円)
基準年 令和2年		
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.1~1.3(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=4.5~5.5(交通量±10%) 事業費：B/C=1.1~1.3(事業費±10%) 事業費：B/C=4.6~5.4(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1~1.2(事業期間±20%) 事業期間：B/C=4.3~5.2(事業期間±20%)		
事業の効果等 ・豪雪等の自然災害等により通行止めとなる脆弱性を有する国道279号の代替路が形成され、第1次緊急輸送道路としての機能強化が図られる ・第三次救急医療施設（青森県立中央病院）への搬送時間短縮により、下北地域の救急医療体制の強化が図られる。		
関係する地方公共団体等の意見 ・国道279号沿線首長、議会議長、商工団体等により構成される「下北半島振興促進連絡協議会」（会長：むつ市長）及び「下北半島縦貫道路早期実現促進協議会」（会長：むつ商工会議所会頭）から、当該バイパスを含む下北半島縦貫道路の早期全線整備が求められている。		
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・下北半島縦貫道路 有戸北バイパス（延長6.3km）が平成24年11月に供用開始 ・下北半島縦貫道路 横浜南バイパス（延長7.0km）が平成25年5月に新規事業化 ・下北半島縦貫道路 横浜北バイパス（延長10.4km）が平成28年4月に新規事業化 ・下北半島縦貫道路 吹越バイパス（延長5.8km）が平成29年11月に供用開始		
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率100%、事業進捗率約84%		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・軟弱地盤箇所において、載荷盛土の荷重により圧密沈下を促進する工法で進めていたが、一部区間で想定の間隔内で沈下が収まらず収束の目途も立たないことから、沈下を抑制する工法として路体の一部に軽量盛土を用いることで、早期の供用を目指していく。		
施設の構造や工法の変更等 他工区との工程調整による建設発生土の有効利用や、新技術・新工法を積極的に活用すること等により、コスト縮減に努める。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 事業の必要性、重要性に変化はなく、費用対効果の投資効果も確保されているため。		

